

【別紙】平成30年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立高等学校 全日制)

(A4判横)

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校教育目標	未来を創る しなやかでたくましい人材の育成
目指す学校像	新しい時代の教育を創造し、しなやかでたくましい人材を育てる川口市のリーディング校

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者 (教職員を除く)	3名
事務局 (教職員)	4名

学 校 自 己 評 価						
領 域	年 度 目 標			年 度 評 価 (平成31年 1月30日 現在)		
	現状と課題	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 3校統合による学校運営のすり合わせが、計画から実施に移り、現実的な課題の解決に日々直面している 新しい学校としての理念に基づく、中長期ビジョンが、未設定である 	「将来構想の策定」 旧3校の教育活動のよさを受け継ぎつつ、川口市立高等学校としての中・長期ビジョンを策定し、効率的・効果的な学校運営を行う	①川口市立高校の中・長期的な将来構想を1学期中に策定する ②中高一貫校開設準備室の開設 ③学校評価(内部)の中間評価、年度評価を実施した ④会議回数・時間の精選	①将来構想を策定し、9月に教職員に示すことができた ②中高一貫教育校の開設準備が順調に進んでいる ③学校評価(内部)の中間評価、年度評価を実施した ④開校初年度であり、会議の精選が難しかった	A	①将来構想を具現化するためのシステムの構築を進める 土曜授業の在り方に検討が必要である ③学校評価をとおしてPDCAサイクルによる学校の評価・改善機能を定着させる必要がある
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 統合により複数の教育課程が混在しており、全校としての評価・検証・改善を行うことが困難である 1学年においては、新たな発想で進学校へのステップアップしやすい状況にある 	「新たなタイプの進学校」 先進的な教育を他校に先駆けて取り入れ、文武両道の新たなタイプの進学校としての基礎を築く	⑤2、3学年：旧3校の教育課程の実施・検証・改善を通して進学指導の充実 ⑥1学年からは国公立進学型の教育課程編成による計画的な進路指導を推進	⑤旧3校がそれぞれの特色を生かし進学実績を上げることができた ⑥1学年団を中心に「新たなタイプの進学校」の基礎づくりに資する効果的な取組が推進できた	B	⑥次期学習指導要領に基づく進学校としての教育課程編成をさらに研究した上で、本校独自の教育課程の編成を進める
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 新しい学校への関心と期待の高さに応えるため、丁寧な情報発信が必要である 唯一の市立高校として、地域の教育資源活用や諸機関からの支援を受けやすい環境にある 	「学校を核とした地域づくり」 唯一の市立高校として市民に的確な情報発信をするとともに、リーディング校として川口の教育に貢献する	⑦市教委事業に対する会場提供・協力 ⑧小中学校との連携・協力的確な情報発信をすること ⑨社会や地域実践に学ぶ教育活動 ⑩ホームページやメール配信を活用した戦略的な情報発信	⑦会場校として理科オリンピック、英語弁論暗唱大会等の市教委事業に協力できた ⑧川口市をテーマにした学習を計画 ⑨児童生徒との交流以外にも小中学校教員との合同研修を実施した ⑩ホームページには年間30万近いアクセスがあり、市民等に対する説明責任果たせた	A	情報の「発信」から「共有」「交流」へと発展させ、リーディング校としての役割を一層明確に果たしていく意識を高める
教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 旧3校の研修体制のすり合わせと再構築が必要である 最新鋭の施設・設備や立地条件などから大学や研究機関からの協力が受けやすい 	「新しい教育への対応」 アクティブラーニングやICTの効果的な活用を研修テーマとし、計画的な教職員研修を行う	⑪教職員研修計画の策定 ⑫未来を拓く学びプロジェクトに全教科が参加 ⑬連携大学や関係機関と連携した教職員研修 ⑭ICTを活用した授業展開の研究	⑪⑬については準備が十分にできなかった ⑫全教科から県の研究員を派遣することができた ⑭アクティブラーニングとICTを活用した授業づくりを研修課題として全教職員が授業を行った	B	⑪本校の実態に応じた、組織的、計画的な研修計画を策定し、授業力向上を図ることで期待と信頼に応える ⑫県の未来を拓く学びプロジェクトへの継続参加と、アクティブラーニング、ICT活用を継続推進する
施設・設備等の管理	<ul style="list-style-type: none"> 旧校舎等解体とアリーナ棟の建設工事が始まることで、安全面への配慮が必要となる ICTをはじめとする最新鋭の施設を教育活動に効果的に活用する必要がある 	「最新鋭の設備の効果的活用と安全への配慮」 最新鋭の施設・設備を生かした教育活動を展開するとともに、アリーナ棟建設工事での安心・安全の確保に努める	⑮旧校舎解体工事に伴う安全管理(市担当者、業者との情報共有) ⑯ICTの有効活用によるペーパーレス化 ⑰新校舎の危険箇所確認と安全管理及び、旧県陽、川口高校の施設の安全点検	⑮事故は無かったが、今後も危機管理意識を高く持つことが必要である ⑯職員会議と朝集のペーパーレス化ができた ⑰担当教員、副校長、事務室の連携により概ね適切な対応ができた	A	⑮アリーナ棟工事に伴う、校舎内及び登下校の交通事故の絶無を期す ⑯校務についてもICT活用を進め教職員の負担軽減を図る

学校関係者評価	
※実施日	平成31年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> 3校統合で大変な状況の中、また新校開校から短期間で将来構想を策定したことに敬意を表する。 生徒目線で組織運営に工夫が必要である。 大学入試改革に向け、「新たなタイプの進学校」としてのビジョンをどのように推進していくか課題である。 来年度実施予定の「川口市をテーマにした学習」は世の中と関わることができる良い取組である。 50分授業の中でアクティブラーニングの実施率を上げる必要がある。 学校全体でICTやアクティブラーニングを推進する上で教職員の資質向上が不可欠である。 ICTやアクティブラーニングの活用について積極的に研究を進め、教育活動に活かしていることがわかる。今後、学校全体で研究を一層推進していく上でシステムを構築する必要がある。 教職員が地域に出て登校指導を実施しており地域としても助かっている。